

NCUとあなたを結ぶ情報誌誕生。



名古屋市立大学
医学研究科・医学部 広報誌

創刊号

VOL.1

contents

極 研究&教育
Current topics in research and education

人 時の人
People in the news

技 最新医療の紹介
Latest developments on the medical front

ご挨拶

Greeting of the first number

新しく生まれた広報誌をお届けします。まだ名前はありませんが、皆さんに可愛がられ、大きく育てて頂きたいと思えます。

私たちの大学も、法人化により生まれ変わろうとしています。輝かしい伝統の上に立ち、さらなる飛躍への熱い思いです。この思いを遂げるには、同窓・同門の皆様からの愛情と本学スタッフの熱情の両輪が必要です。この広報誌が、両輪を力強く動かす潤滑剤になってほしいと願っています。

来春、私たちの大学では、病院外来棟が新築され、分子医学研究所は最後の第5部門（再生医学）が完成し、さらには教育・臨床研修センターには専任教授が配置されるなど、最先端の医学医療の拠点をめざして歩み始めています。そこに皆様からの愛情があれば鬼に金棒です。

私は、学生に愛校心を説き続けています。学生の時から、本学への愛情を育んでこそ、同窓生になってからも母校に大きな愛を注げるからです。

「愛は勝つ」。この言葉が私たち大学の未来の姿を象徴しています。皆様からの温かいご支援を謹んでお願い申し上げます。

平成18年10月吉日
医学研究科長・医学部長
郡 健二郎

本誌愛称
大募集!

NCUとあなたがつくる 本誌のタイトルを募集します!

■応募方法

卒業生、在校生とNCUをつなぐ、親しみやすく素敵なタイトルと一緒に考えませんか?応募に際しては、1.本誌「タイトル」 2.ネーミングの由来 3.本誌に期待すること 4.氏名、住所、電話番号、卒業年度(在校生は学年)、現在の所属を書いて、はがきまたはe-mailで下記までお送りください。
(応募締切:12月末日 発表:次号誌面)

■応募先:〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1
名古屋市立大学 医学部事務室『広報誌タイトル募集係』宛
E-mail:igakujimu@sec.nagoya-cu.ac.jp
たくさんのご応募お待ちしております!

研究者紹介



鵜川 真也 (うがわ しんや) 分子形態学(解剖学第2) 助教授

専門:分子神経生物学 (テーマ:酸感受性イオンチャネル(ASIC)の生体における機能解明)

感覚器系を中心に、新規遺伝子の単離、その発現分布や機能を解析、ノックアウトマウスを用いた生体における役割同定を行っています。近年、酸味受容体遺伝子ASIC2aを単離し、ノックアウトマウスの酸味応答をin vivo recordingにて解析。また、蝸牛有毛細胞感覚毛における役割も解析中。近年の論文:Neuroreport 17:1235-9 (2006) Nature 395:555-6 (1998)
趣味:猛虎党、卓球オタク

吉田 宗徳 (よしだ むねのり) 視覚科学(眼科学) 助教授

専門:網膜硝子体 (特に加齢黄斑変性) ぶどう膜炎

臨床研究は、加齢黄斑変性の新しい治療法の開発を目指し、糖尿病黄斑症や網膜血管閉塞、ぶどう膜炎に伴う黄斑浮腫の治療、急性網膜壊死の治療に関する研究も行っています。基礎研究では、小椋教授とともに網膜微小循環障害に関する網膜血管内皮細胞と白血球との相互作用を研究しています。

近年の論文:Exp Eye Res 82:179-82 (2006) Microvasc Res 69:131-41 (2005)
趣味:読書(冒険小説、ミステリー、時代小説)、健康のためウォーキング



関連病院



東三河の強い味方！豊川市民病院

住民のニーズに対応する地域医療の確保と高度・特殊・先駆的医療を担い、患者中心の医療、安全管理の徹底、健全経営を確立し、さらに医療従事者の研修・育成にも熱心に取り組んでいる病院。ほぼすべてが名市大医局の関連であり、大学医学部・病院にとって力強い味方である。

Q.新病院への移転について

建築は、豪華さを望まず、機能性と設備の充実を重視した構想を基に、平成23年の開院を目指している。名鉄諏訪駅と大型ショッピングセンターに隣接した市の中心部で、患者・家族、職員の利便性のほか、中心市街の活性化も期待されている。また、一般病床の増床は、最近の東三河全体の医療提供状態からその可能性もみえてきた。是非実現すべく関係機関と交渉中である。

Q.教育病院としての取り組み

医療従事者の育成は、公的病院の重要な役割の一つである。数多くの医学生の実習を受け入れ、実習生用の宿舎も完備している。当院はほぼ全ての学会の研修(修練)認定施設になっており、若手医師や後期研修医の専門医取得にも貢献している。また、看護学生等のコ・メディカル学生の実習病院でもあり、複数校からの学生が実習に励んでいる活気ある病院である。

Q.研修指定病院として実績と特徴

平成元年からの実績があり、年間10名の研修医を受け入れている。基本・必修科目研修以外の8ヶ月間を、1~3ヶ月単位で研修科を選択できるカリキュラムは好評を得ている。レクチャーは数多く、CPC、カンファランス等は学会形式で発表している。豊富な症例を経験でき、救急外来では難症例まで経験できる。研修を終了した医師は、大学と相互交流を行うことによってより連携を高めたい。

学部教育



A 司会進行役を決め、学生が主体的に討議を進める。ホワイトボードに情報を書き出し、討論する様子。

B グループ学習をより良い方向に向かわせるようにチューターはコーチ役を務める(左から2番目は飯塚成志先生)。

C 配られた症例を熟読する学生たち。

PBL (Problem-Based Learning) 方式による自主学習型教育の展開

PBLは、グループ討議により具体的症例の事実を洗い出し、仮説を立て、学習すべき項目を自分たちで明らかにして学習する教育法です。近年、医系学部を中心に導入され、名市大医学部では4年生を中心に展開されています。「実際の症例に基づいて議論するので具体性があり、問題意識が高まる」「活発に議論するのが楽しい」など、学生からの評判も上々です。



奥田 宣明氏

(奥田内科クリニック、医学部同窓会副会長)

昭和47年名市大医学部卒業。第二外科教室に入局後、研究のため第二生理学に移動。その後第3内科に入局。CCU室長を経て、平成5年瑞穂区にて開業。平成18年、医学部同窓会の副会長となる。

診療・教育にも熱い、同窓会副会長！

Q.診療の特色は？

死因は三つに分けられると考え、癌の早期発見、血管病のリスクコントロール、感染症の初期治療、を中心に、オンラインシステムを用いて、早く、的確に、効率良く、をモットーに、患者さん毎の医療を心がけている。必要に応じた連携医療も重視している。

Q.臨床研修医指導(診療所研修)での重点ポイントは？

大学では臓器専門となるのに対し、プライマリーケアではいかに全人的及び全身的に診るかが重要であると考えている。病態生理を念頭におき、臨床疫学に基づく効率の良い診療と保険診療などにおける基本的ルールを知るバランスの取れた医師像を考えている。

い診療と保険診療などにおける基本的ルールを知るバランスの取れた医師像を考えている。

Q.大学と同窓会をどちらも良く知る立場としてのご意見は？

同窓会はこれまで名市大出身者の集まりですが、他大学出身であっても、医師になってから名市大で学んでいる方は、志を同じくする真の医学仲間であります。学問は一人では成り立ちません。同窓会を発展させるには、大きな枠組みにしてはどうかと考えています。



上段右から、佐々木昌一(腎・泌尿器科)、中西真(代謝細胞生化学2)、浅野實樹(心臓血管外科)、間瀬光人(神経機能回復学)、中尾春壽(臨床機能内科学) 下段右から、林祐太郎(腎・泌尿器科)、堂前純子(代謝細胞生化学1)、杉浦真弓(生殖・発生医学) 続いて、津田喬子(危機管理医学)、山下啓子(腫瘍・免疫外科学)の卒業年次は秘密です。(敬称・ポスト名略)

S60年世代の熱い絆！

医師国家試験が年1回の実施になり、日航ジャンボ機が御巢鷹山に消えた年。昭和60年(1985年)に彼らは名市大を卒業しそのキャリアをスタートさせた。卒後20年以上が経った今、彼らが強力なタレント軍団として大学を支える大きな存在であることを疑う者は誰もいない。「共通一次試験第一期生の僕たちはどことなく違った。」このフレーズを語る時、間瀬氏のテンションはいつも以上に高い。「お前もそう思うだろう。」レインボーで語る中尾氏は喰うのも早ければ喋るのも早い。スリム化しながらもバージョンアップし中央から復帰した佐々木氏。そして敢えてミイラ男を封印した林氏も多忙な研究科長の留守を守る助さん格さんだ。また全ての面でカリスマ性を発揮する浅野氏は明らかに役者が違う。この世代の特筆すべきはその守備範囲の広さにあるだろう。時代を先読みし産婦人科医の息子としての運命を弟に委ねた朝元誠人氏(実験病態病理学)、その研ぎ澄まされた講義が学生に絶対的な支持を受ける堂前氏はガッチリと基礎を固めている。「でも本当に凄い仲間には外にもいる。」杉浦氏は主役そっちのけで同窓会化した自身のパーティーでそのポテンシャルを確実に肌で感じたという。流転の人生に終止符を打ち、約束の地に辿り着いた中西氏は杉浦氏の就任祝賀会(写真)で教授陣の前にこう締めくくった。「このようにまた集えるようにお願いします。」と。ざり気ない中に力強い。そこにあるメッセージは極めてシンプルだがあまりにもリアルだ。

文武両道を実践する若きアスリートたち。

諸先輩方・部員が一丸となり手に入れた優勝。この夏、名市大は熱かった。

第58回西医体(西日本医科学生総合体育大会、7/31~8/14)が名市大の代表主管により開催されました。「水泳で大会新記録のタイムを出せたのはOBの方々、部員全員のおかげです」と笠原君。柔道女子で優勝した小川さんは「忙しい中、指導して下さったコーチをはじめ、一緒に練習してくれた部員のおかげです」と気持ちを語ってくれた。今大会で5冠の偉業を達成した塚原さんは「練習と大会運営の両方は大変でしたが、色々な人と交流できたのが一番の喜び」と話す。次大会での活躍も大いに期待したい。



小川 紫野さん(4年)
西医体柔道女子優勝、全医体柔道女子優勝。中学より柔道を始める。西医体では1,2年生の時も同種目にて優勝を果たす実力派。

塚原 由佳さん(3年)
西医体陸上競技400m、100mハードル他3種目で優勝、5冠を勝ち取る。その他、今夏は全日本学生選手権出場など、多数の大会で大活躍。

笠原 大輔くん(1年)
水泳200m個人メドレーにて優勝、大会新記録を達成(タイム2'13"秒)。本大会ではバレーボールにも出場したスポーツ万能なアスリート。



名市大病院は眠らない!(ER最前線)

巨大空港に舞い降りるいくつもの機体のサーチライトのように、近づくサイレンにも驚くことはなくなった。夜を待ちきれないように新病棟1階サウスウイングに名市大病院の全機能が集結する。「助かるはずの命を助ける」。そんな熱い思いに集まった救急医・研修医そして救急隊員を今夜も指揮する竹内昭憲救急部助教授(写真右手前)に迫る。

Q.救急部の現状について?

平成13年に救急を充実させるという病院の方針が打ち出され、現在教官5名とレジデント1名で救急患者の初療と診断を行い各専門診療科に渡すまでのいわゆるER型救急を行っています。診断のつかないものや蘇生後、熱中症、低体温症、急性薬物中毒などは主科になって入院治療を行っています。蘇生法の教育にも力を入れており医学部・看護学部学生はもとより桜山ACLSは他院職員や救急隊員にもオープンにしています。

Q.今後のビジョンは?

- 新臨床研修制度になり救急を体系的に教育できる救急医に対する臨床研修指定病院のニーズは高い。救急をやってみたいと思う人を少しでも増やすために学生・研修医に対する教育に力を入れていきたい。
- 救命救急センター開設を目指し、救急車を少しでも多く応需できるように院内環境の整備を行っていきたい。
- 病院職員に対する蘇生法の普及教育を行っていきたい。災害に対する体制整備を行ってきたい。

Q.(今さら聞けない)AEDとは?

突然の心停止は心室細動が原因であることが多いとされています。スイッチを入れて音声ガイドに従って操作すればAED(自動体外式除細動器)は心室細動の診断をし電氣的除細動を行うことができます。AEDは人工呼吸や胸骨圧迫と組み合わせてこそ救命の効果が上がります。院内職員に対する講習も間もなく再開する予定ですので、医療従事者は講習を受けて正しく使えるようにしておきましょう。

「公立大学法人名古屋市立大学振興基金」へのご協力・ご支援のお願い

本学は、本年4月、公立大学法人として新たな第一歩を踏み出しました。医学研究科・医学部・附属病院におきましても、教育・臨床研修体制の充実、先端的・先進的な新研究分野の設立、新外来診療棟の開院など様々な新規事業に取り組んでいるところです。このたび、本学では、広く皆様からのご協力を仰ぎ、財政基盤を確立するため、新たに「公立大学法人名古屋市立大学振興基金」を設立いたしました。なにとぞ、ご理解・ご賛同を賜り、特段のご協力・ご支援をお願い申し上げます。

「公立大学法人名古屋市立大学振興基金」への寄附のご案内

ご協力をお願いする金額	個人の場合は1口5,000円(複数口も可能です。)、法人の場合は1口あたりの金額は特に定めておりません。
寄附目的	名古屋市立大学の振興を目的とします。大学の特定の分野・事業を指定したご寄附も可能です。
免税措置	個人の場合は、寄附金が5,000円を超える場合、その超えた金額が所得から控除されます。ただし、寄附金の額が総所得金額の30%を上回る場合は30%を限度とします。法人の場合は全額損金算入が可能です。
お問い合わせ先	名古屋市立大学医学部事務室 TEL:(052) 853-8077
その他	寄附に関する詳細は、本学ホームページ(http://www.nagoya-cu.ac.jp)でもご覧いただけます。

理科研は「バイオ研究」に欠かすことのできない
機器・試薬の販売を通じ
人類の幸せと豊かな社会の実現を願っています

理科研株式会社

本社 〒463-8528 名古屋市守山区元郷二丁目107番地
TEL 052-798-6151(代) FAX 052-798-6157
東京支店・営業所/つくば・柏・神奈川・鶴見・静岡・岐阜・津・四日市

<http://www.rikaken.co.jp>

発行:名古屋市立大学医学研究科・医学部
〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1
TEL (052) 853-8077 FAX (052) 842-0863

URL <http://www.nagoya-cu.ac.jp>

※次号の発行は平成19年2月下旬発行予定です。[年3回 10月・2月・6月]

❏ 広告募集についての概要

左記スペースの広告を募集しております。詳細につきましては発行者:名古屋市立大学医学研究科・医学部、広報誌担当者までお問い合わせください。